

講義コード	519901302	
講義名	保育原理 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
専任教員	山本 詩織	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

## 授業の概要

### 授業の概要

全15回の授業を通して、「保育とは何か」という問題を多角的に考察する。

### 授業の到達目標及びテーマ

本授業では、

- ・ 保育に関連する法令及び制度について理解する
- ・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する
- ・ 保育の思想と歴史的変遷について理解する

以上3点を目標とし、これらを全て踏まえたうえで保育の現状と課題について自ら考察できるようになる、という目標を含んだ4点を到達目標とする。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている」を達成するための授業である。

## 授業計画表

回	内容
第1回	保育とは何か——保育の意義と概念
第2回	子育て支援と保育制度①——保育を取り巻く現状
第3回	子育て支援と保育制度②——子ども・子育て支援新制度
第4回	子ども観と保育の思想①——保育思想と子ども観、古代から中世
第5回	子ども観と保育の思想②——近代公教育制度への転換から児童中心主義
第6回	子ども観と保育の思想③——現代的な保育思想、日本における保育
第7回	子ども観と保育の思想④——明治以降の保育、まとめ
第8回	前半部分の振り返りと小テスト

第9回	保育の基本——保育所保育指針からわかる保育の基本
第10回	保育の内容と方法①——領域、ねらい、内容
第11回	保育の内容と方法②——遊びの意義と保育形態
第12回	保育の計画と評価
第13回	保育における現状と課題、専門職としての保育者
第14回	非認知能力の育成と保育の世界的潮流
第15回	まとめ——あらためて、保育とは何か、後半部分の小テスト

### 授業時間外の学修

#### 予習

乳幼児に関わる新聞記事やニュース、書籍等にできるだけ多く触れて欲しい。また、必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。語句の意味で不明なものがあれば、必ずその際にチェックし、調べておくこと。（各回の予習は60分程度かかると想定される。）

#### 復習

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。（各回の復習には120分程度かかると想定される。）

### 実務経験の有無

### ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	○	○

### ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
具体性	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を自らのかわる問題として豊かにイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿をイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を概ねイメージできているが、現実との乖離も見られる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まり、具体的な行為や姿をイメージすることが出来ないためレポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
文章構成	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができおり、レポート	高等教育を受ける者として相応しい文章表現が	高等教育を受ける者としてやや相応しい文章表現ができてい	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができておらずレポートへの助言・

能力	トの文章構成が優れていると認められる	できていると認められる	ると認められる	新たな資料提供等の支援を行っている
----	--------------------	-------------	---------	-------------------

## 成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	70%	
成果発表		
授業への貢献度	10%	
レポート	20%	
その他		

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

## ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 チャット 掲示板の活用 メール等の活用
--

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである
-------------------------------

## アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

## 教科書

太田光洋・宮地あゆみ・小栗正裕編『保育の原理と方法』保育出版会、2018年

## 参考書

厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2017年  
吉見昌弘・齋藤裕編『はじめて学ぶ保育原理』北大路書房、2017年

**SDGsとの関連**

4. 質の高い教育をみんなに

**特記事項等**

科目のナンバリング

SOB1201

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

**研究室（訪問先等）**

中央研究棟 2階 228研究室

出講日は、前期が月曜日・金曜日、後期が月曜日・火曜日・水曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

**電話番号**

028-667-7111（代表）

**授業用E-mail**[yamamoto@sakushin-u.ac.jp](mailto:yamamoto@sakushin-u.ac.jp)**成績評価法**

- ①小テスト 70%
- ②レポート 20%
- ③授業への貢献度 10%
- ④その他 0%